

第23回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会(ホール審査) 総評 コンチェルトC部門

●審査員 A

- ・全体を良く聴いて、作品の世界を拓けている演奏がみられました。
- ・2台ピアノとの音のバランスのとり方が難しいところ。ソリストとしての力を更につけてほしい。

●審査員 B

ブルース・リウは、ショパン・コンクールの準備で最も困難だったことは何かという質問に対して、「作品の音を常に新鮮に保つこと」と答えていました。これは、皆さんも同じだと思います。何時間練習しても、常に新しいアイデアを求め、ステージに上がる前にも、パターン化された自動演奏にならないようにしてください。それにしても、皆さんの演奏のレベルの高さには感心しました。今後がんばってください！

●審査員 C

コンチェルト全楽章を今回は2台ピアノでのファイナルだったが、例年の様にカルテットと協演出来なくて残念であった。動画と違いライブでは音色や音の響き方がよく分かり4名とも力演ではあったが、その点で差がついたと思う。

●審査員 D

オーケストラと演奏する場合、相手をよく聴いて拍を明確にして合わせる事が大事です。オケと合体するように。3楽章はリズムと民族的な香りの強いショパンをしっかり感じるように。

●審査員 E

- ・指先からの歌うことのできるニュアンスあるタッチを望みます。
- ・体からの響きも感じた腕の使い方豊かな音色がほしい。
- ・楽器の鳴らし方はフルオーケストラの響きというよりは室内管弦楽団のような音の集まり方の意識がほしいです。
- ・和音のバランス、一番美しい響きを探して下さい。
- ・力を出すfではなく豊かな響きを色彩感を持って奏でてほしい。
- ・練習通りのタイミングで弾くばかりでなくホールの響きからも音楽を感じて奏でてほしい。
- ・オーケストラを積極的に自分の音楽で引っぱる音の主張がもっとほしい。
- ・オーケストラのどの楽器と共鳴しあっているのかを感じながら演奏して下さい。

●審査員 F

- ・協奏曲の構築を今一度学び、演奏表現につなげるべく努力して参りましょう。
- ・楽章間の間も表現しましょう。
- ・指先の圧をコントロールしてほしいです。多彩なタッチを目指して下さい。軽やかなパッセージがあっても、フルコンの鍵盤の深いタッチがないとホールによい音がひびきません。
- ・和声の変化に細やかに反応して弾きたいですね。そのハーモニーの持つ役割、パワーを心から感じ、ショパンの和声を理解して下さい。
- ・ショパンのコンチェルトは生涯を通じて勉強していく作品です。皆さんのさらなる精進と飛躍を願い、期待しております。